

b. 石巻圏域子ども・若者支援地域協議会構成機関等調査

i. 機関票集計結果

この調査の集計結果を読むにあたり、以下に留意ください。

- ・ 調査結果の表は、回答数（度数）または、回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- ・ 「n」は、「Number of cases/observations」の略で、構成比を算出するための母数（調査回答数）を示しています。
- ・ 百分率による集計では、回答者数（あるいは該当者数）を100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。構成機関等調査-i 機関票集計結果では、回答機関数は13ですが、未回答機関のある設問もあったため、全数が13あるいは12、11の場合があります。
- ・ 図表中の「0.0」は該当する回答がなかったことを表しています（今回の調査結果では、四捨五入の結果として0.0になったものはありません）。
- ・ 本調査では、母数が100未満であり、百分率は統計的誤差が大きい可能性がありますので、数値の解釈には留意が必要です。
- ・ 選択肢の語句について、本文および図表の中では省略した表現を用いる場合があります。

Q0-1. 2018年7月以降に、子若センターから貴機関へつないだケース数

	度数	比率 (%)
1人	4	33.3
2人	2	16.7
3人	3	25.0
4人	1	8.3
39人	1	8.3
150人	1	8.3
合計	12	100.0

n=12

Q0-2. 2018年7月以降に、貴機関から子若センターへつないだケース数

	度数	比率 (%)
0人	8	72.7
1人	0	0.0
2人	1	9.1
3人	2	18.2
合計	11	100.0

n=11

Q1. 回答機関名をご記入ください。

【教育】

- ・ 認定 NPO 法人こども∞感ぱにー
- ・ 石巻市教育委員会
- ・ 特定非営利活動法人 TEDIC
- ・ 宮城県東部教育事務所

【就労】

- ・ 認定 NPO 法人 Switch
- ・ 石巻地域若者サポートステーション

【保健福祉】

- ・ 石巻市 保健福祉部 保護課
- ・ 石巻市 保健福祉部 総合相談センター
- ・ 東松島市 保健福祉部 健康推進課
- ・ 宮城県東部保健福祉事務所（石巻保健所）
- ・ 宮城県北部保健福祉事務所（大崎保健所）
- ・ 宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」
- ・ 石巻市・女川町基幹相談支援センターくるみ

- ・ からころステーション
- ・ 公益財団法人共生地域創造財団

(記述/順不同)

(上記のうち、個別ケース入力票のみの回答機関が2機関あったため、機関票の全数は13となっている。)

Q2. 回答にご協力いただき担当者のお名前を教えてください。

回答者基礎情報のため、省略。

Q3. 回答にご協力いただき担当者のお問合せ先を教えてください (メールアドレス及び電話番号)。

回答者基礎情報のため、省略。

Q4. 貴機関で行っている支援を教えてください。

- ・ 個別相談 (来所、訪問、電話、メール)
- ・ 相談支援 (障害者、就労準備、思春期・ひきこもり・各種虐待・いじめ・不登校)
- ・ 総合相談
- ・ 思春期・青年期ひきこもり相談の実施
- ・ 学校訪問支援
- ・ いじめ・不登校等の支援を必要とする児童生徒、保護者の来所等による個別相談
- ・ 居場所支援 (学習・生活支援、居場所提供)
- ・ フリースクール
- ・ 子どもの学習・生活支援
- ・ 高校・大学と連携して、学校内居場所カフェの実施や出張相談。

- ・母子保健児童虐待予防事業に関する支援
- ・市町母子保健活動推進支援に関する支援
- ・生活困窮者に対する自立相談支援
- ・就労準備支援
- ・15～49歳までの無業の方の就労支援
- ・職場実習の実施
- ・人材育成
- ・家計改善支援
- ・保健活動（成人保健・精神保健・母子保健）
- ・訪問等による被災者の心のケア
- ・被災地支援
- ・訪問看護ステーション
- ・18歳以上の方を支援している支援者に対して、ケース相談、訪問コンサルテーション等
- ・各種プログラムの実施（就活、セルフケア、余暇など）

（一部抜粋）

Q5. 貴機関の支援で、効果的だと思う取り組みを教えてください。

- ・ 伴走型支援
- ・ 個別面談
- ・ 個別アウトリーチ、(支援機関内事業) のアウトリーチと通所による支援を組み合わせることで対象者がつながりやすい仕組みを構築している。
- ・ (就労支援において) 職場体験、中間就労など、スモールステップで就労体験ができるプログラムを準備。多様な経験を重ねることや就労に動くきっかけとなっている。
- ・ 児童から成人まで年齢制限を設けず、療育や面談などの直接支援を行っているところ。
- ・ 支援者の方の相談を受け、地域の支援者のバックアップを行っているところ。
- ・ 各種セミナーの実施
- ・ 集中訓練プログラム
- ・ 内部、関係機関と情報共有、役割分担を行いながら支援を行っている。
- ・ 多職種(教育職、福祉職、心理職)による複数対応。
- ・ 地域の身近なところで専門相談が受けられ、相談後の支援方針についても、相談員の助言に基づき対応している
- ・ 市町主催の母子カンファレンスへの出席。(市町支援)
- ・ 月に一度、保健福祉事務所で取り組んでいる思春期・ひきこもり相談。(相談支援)
- ・ 子ども・若者総合総合相談センターと居場所支援を単一団体が担うことで、ニーズに対しての支援が円滑に進む。

(一部抜粋)

Q6. 支援の成果を把握するのに用いている指標があれば教えてください。

	度数	比率 (%)
明確にある	5	38.5
曖昧だがある	2	15.4
ない	6	46.2
合計	13	100.0

n=13

Q7. 効果的に支援を行うためには、どのようなことを大事にしていますか。

- ・地域の相談機関との連携、情報共有
- ・アウトリーチ
- ・柔軟性
- ・即時性
- ・地域に合わせて
- ・赤の他人が家族機能を補完すること
- ・個別相談により課題の共有化を図り、自発的に行動していく事。
- ・相談者の主訴、状況の正確な把握
- ・ケース担当が抱え込まず、内部連携、関係機関と情報共有、役割分担を行いながら支援を行うことを大切にしている。
- ・児童生徒の思いや特性を把握し、保護者や学校と話し合い環境調整を行うこと。
- ・本人及び保護者と良好な関係性を築き、信頼を損ねないこと。
- ・子ども・若者本人の声を拾い、彼らの視点に立ち続けようとする事。

(一部抜粋)

Q8. 子若センターとの連携は円滑にできていますか。

	度数	比率 (%)
そう思う	5	38.5
どちらかといえばそう思う	4	30.8
どちらかといえばそう思わない	4	30.8
そう思わない	0	0.0
合計	13	100.0

n=13

Q8-①. Q8 で回答した理由を教えてください。

- ・ケース紹介や紹介していただいたケースの情報共有、支援にかかわる相談などをタイムリーに受けていただいている。(そう思う、民間)
- ・アウトリーチすることの大切さや、依存させることなく相談者ファーストの相談がされているため、信頼して相談者のために協働できる。(そう思う、民間)
- ・当所は子ども・若者に関する相談は多くないが、個別相談や専門相談を利用した方に必要に応じて子若センターについて情報提供している。子若センターと当所(支援機関)が関わっているケースについては、状況により情報共有しながら対応できている。(そう思う、行政)
- ・他業務での繋がりもあるため情報交換が比較的スムーズである。(どちらかといえばそう思う、行政)
- ・連携件数が多くない。(どちらかといえばそう思わない、民間)
- ・純粋にケース共働の機会が少ないので、良いとも悪いとも言えないのが実情です。(どちらかといえばそう思わない、行政)

(一部抜粋)

Q9. 子若センターと連携して良かった点があれば教えてください。

報告書へ抜粋して記載。

Q10. 子若センターの活動は石巻圏域の支援体制上役に立っていると感じますか。

	度数	比率 (%)
そう思う	8	61.5
どちらかといえばそう思う	4	30.8
どちらかといえばそう思わない	1	7.7
そう思わない	0	0.0
合計	13	100.0

n=13

Q11. 子若センターの取り組みで、今後強化した方がいいと思うことがあれば教えてください。

- ・昨年度、今年度の子若協議会の開催で圏内のネットワークが構築・強化されてきた印象があります。ネットワークの強化や活きた取り組みとなるように引き続きよろしくお願いします。(民間)
- ・相談者のその先の様子まで把握、いつでもつなぎ戻しができる支援体制を持っていると良い。長い支援になるため思い切った予算が必要。(民間)
- ・失礼かと思いますが、どうしてもメンタルヘルスの問題が多いと思うので、精神的な面での専門的な見立て・方針ができるスタッフを常時雇用してほしい。(民間)
- ・リファー時の情報量が極端に少ない為、課題を明確にする取組みを強化願いたい。(民間)

(一部抜粋)

Q12. 今後の支援をより良くするために、県（教委・広域事務所含む）に期待することがあれば教えてください。

- ・成人で、はっきりとした診断がない為に利用（相談）できる場所がない方のニーズを把握していただき、体制整備を進めていただきたいです。
- ・震災後、さまざまな支援における社会資源が増えている。特にアウトリーチや地域包括ケアといった重要な視点を持った人たちが多く石巻地域で活躍しているが、有効性が示されないままになっている。指標などを持って効果を示して欲しい。
- ・子若と石巻圏域の県機関との連携実績に関する情報を共有することで、教育と福祉の連携の成果と課題の再認識につながる。
- ・学校を中退や卒業する等して所属がなくなるケースについては、地域と在学中から情報共有・連携することで途切れなく支援できるのではないかと思います。

（一部抜粋）

Q13. 今後の支援をより良くするために、市町村に期待することがあれば教えてください。

- ・若者の場合、支援機関につながると、行政がすぐ手を引く印象があります。ネットワークの一員として行政の立場で役割を担っていただけると助かります。
- ・市町村の内部連携の話と外部機関との連携の話が、同等の扱いのようにになっていることがある。とくに複合的な問題のあるケースは（支援機関内部）での担当をもうけて欲しい。
- ・特に子ども・若者はその先にも人生が続いているため、いろいろな助けをもらいながらも一人で生きていけるようなことを身に着けることのできるような関わりをするためにはどうしたらいいのかを考え続けることで、共生地域を作っていけると考える。
- ・子若と市町村の連携実績に関する情報を共有することで、教育と福祉の連携の成果と課題の再確認につながるものと思われる。
- ・15～49歳までの無業の方の掘り起こし。

（一部抜粋）

Q14. 今後の支援をより良くするために、子若センターに期待することがあれば教えてください。

- ・関係機関の一つとして当所を紹介していただいた際には、こちら側に、紹介していただいた経緯やケース概要について情報提供していただければ幸いです。
- ・連携における蓄積のために、フェイスシートの作成などを行ってほしい。依頼を受ける上でも、簡単に経過がわかったほうが良いと思う
- ・総合相談の窓口が主な役割かと思うが、相談を受けたあとも相談者に関わり続け、つなぎ戻しがいつでもできる距離感で相談者と関わるができることにより効果的な場所となると考える。それには相談者と信頼関係を構築するための時間がかかると思う。人件費などの予算の増額が必要。
- ・子若設置からのこれまでの実績に関する情報提供があれば、どのような年齢層・種類の相談が圏域のどこにつながっているのかの分布図になる。その分布図を知ることが各団体の取り組みの変化につながると思われる。

(一部抜粋)

Q15. 今後の支援をより良くするために、民間団体に期待することがあれば教えてください。

- ・お互いの支援の特徴を知り、強みを生かし弱みを補完する関係になればと考えています。
- ・民間団体の活動内容について、関係機関への周知を強化していただきたいです。
- ・継続した団体運営ができるからこそその支援活動だと思う。赤の他人ではあるが、相談者の家族機能の一部となれるような支援を期待したい。
- ・各団体の特徴を活かしながらも、学習を希望する子どもに対する学習支援の充実や、心のケアや子どもの成長発達の視点からの関わりを期待する。

(一部抜粋)

b. 石巻圏域子ども・若者支援地域協議会構成機関等調査

ii. 個別ケース入力票集計結果

この調査の集計結果を読むにあたり、以下に留意ください。

- ・ 調査結果の表は、回答数（度数）または、回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- ・ 「n」は、「Number of cases/observations」の略で、構成比を算出するための母数（調査回答数）を示しています。
- ・ 百分率による集計では、回答者数（あるいは該当者数）を100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。構成機関等調査-ii 個別ケース入力票集計結果では、全数は214ですが、未回答のある設問もあったため、214～210の場合があります。
- ・ 複数回答（MA: Multiple Answer）の設問では、比率の合計が100%を超えることがあります。設問の中には前問の回答に依存する設問があり、回答者数が全体より少なくなる場合があります。
- ・ 図表中の「0.0」は該当する回答がなかったことを表しています（今回の調査結果では、四捨五入の結果として0.0になったものはありません）。
- ・ 選択肢の語句について、本文および図表の中では省略した表現を用いる場合があります。
- ・ 誤回答も含めて単純集計をしているため、Q1、Q2において子若センター開設以前（2018年7月より前）の回答が含まれます。

Q1. センターからの繋ぎ時期

	度数	比率 (%)
2017年3月	1	0.5
2018年2月	1	0.5
2018年3月	1	0.5
2018年7月	46	21.6
2018年8月	5	2.4
2018年9月	8	3.8
2018年10月	5	2.4
2018年11月	9	4.2
2018年12月	5	2.4
2019年1月	2	0.9
2019年2月	2	0.9
2019年3月	3	1.4
2019年4月	5	2.4
2019年5月	3	1.4
2019年6月	1	0.5
2019年7月	6	2.8
2019年8月	3	1.4
2019年9月	7	3.3
2019年10月	7	3.3
2019年11月	2	0.9
2019年12月	5	2.4
2020年1月	4	1.9
2020年2月	5	2.4
2020年3月	4	1.9
2020年4月	8	3.8
2020年5月	3	1.4
2020年6月	1	0.5
2020年7月	1	0.5

2020年9月	1	0.5
2020年10月	5	2.4
2020年11月	4	1.9
2020年12月	3	1.4
2021年1月	3	1.4
2021年2月	2	0.9
2021年3月	1	0.5
2021年4月	2	0.9
2021年5月	1	0.5
2021年6月	1	0.5
2021年7月	1	0.5
2021年8月	2	0.9
2021年9月	7	3.3
2021年10月	10	4.7
2021年11月	3	1.4
2021年12月	8	3.8
2022年1月	1	0.5
2022年3月	3	1.4
2022年5月	1	0.5
未対応	1	0.5
合計	213	100.0

n=213

Q2. 初めて本人から相談を受けた時期

	度数	比率 (%)
2013年4月	2	1.0
2017年2月	1	0.5
2017年3月	2	1.0
2017年10月	1	0.5
2018年3月	1	0.5
2018年7月	44	21.0
2018年8月	5	2.4
2018年9月	6	2.9
2018年10月	5	2.4
2018年11月	8	3.8
2018年12月	4	1.9
2019年1月	2	1.0
2019年2月	3	1.4
2019年3月	2	1.0
2019年4月	5	2.4
2019年5月	3	1.4
2019年6月	2	1.0
2019年7月	4	1.9
2019年8月	4	1.9
2019年9月	9	4.3
2019年10月	4	1.9
2019年11月	2	1.0
2019年12月	3	1.4
2020年1月	7	3.3
2020年2月	4	1.9
2020年3月	2	1.0
2020年4月	9	4.3
2020年5月	2	1.0

2020年7月	1	0.5
2020年9月	1	0.5
2020年10月	5	2.4
2020年11月	2	1.0
2020年12月	4	1.9
2021年1月	2	1.0
2021年2月	2	1.0
2021年3月	4	1.9
2021年4月	2	1.0
2021年5月	1	0.5
2021年6月	2	1.0
2021年7月	1	0.5
2021年8月	1	0.5
2021年9月	3	1.4
2021年10月	14	6.7
2021年11月	3	1.4
2021年12月	7	3.3
2022年1月	1	0.5
2022年3月	2	1.0
2022年4月	2	1.0
2022年5月	1	0.5
2022年6月	1	0.5
なし	1	0.5
不明	1	0.5
合計	210	100.0

n=210

Q3. 相談者の性別

	度数	比率 (%)
女	116	54.2
男	98	45.8
どちらともいえない	0	0.0
合計	214	100.0

n=214

Q4. 支援開始時の相談者の年齢（10歳ごと）

	度数	比率 (%)
10歳未満	16	7.5
10代	175	81.8
20代	14	6.5
30代	8	3.7
40代	1	0.5
50代	0	0.0
60代	0	0.0
70代	0	0.0
合計	214	100.0

n=214

Q5. 支援開始時の相談者の所属等

	度数	比率 (%)
未就学	9	4.2
小学生	45	21.1
中学生	76	35.7
高校生	46	21.6
専門学校生	1	0.5
大学生・短期大学生	3	1.4
大学院生	0	0.0
予備校生など	0	0.0
正規職員・社員（自営業を含む）	0	0.0
パート・アルバイト、契約社員など非正規職員	4	1.9
専業主婦・主夫	1	0.5
無業者（求職中含む）	18	8.5
その他（家事手伝い、主に自宅で勉強中の人など）	10	4.7
合計	213	100.0

n=213

Q6. 主な課題（最大3つまで）（複数回答）

	度数	比率 (%)
ひきこもり	6	2.8
仕事	22	10.3
学校・不登校	117	54.9
進路	43	20.2
家庭問題	125	58.7
友人・恋人関係	24	11.3
経済的問題	95	44.6
支援制度利用	42	19.7

疾病・障害	43	20.2
依存	2	0.9
その他心理的問題	19	8.9
その他	5	2.3
よくわからない	14	6.6
なし	69	32.4
合計	626	

n=213

Q7. 主な支援内容（最大3つまで）（複数回答）

	度数	比率（%）
相談	181	85.0
つながり	30	14.1
給付	0	0.0
訓練	11	5.2
余暇・遊び	34	16.0
検査・診断	0	0.0
助言	90	42.3
指導	70	32.9
矯正	0	0.0
居場所	60	28.2
教育	32	15.0
見守り	63	29.6
なし	55	25.8
合計	626	

n=213

Q8. 具体的な支援内容

- ・母を通じた本人の状況確認と助言等の実施。
- ・居場所支援の実施、居場所内での学習支援の実施及び相談支援の実施。
- ・フリースクールでの居場所支援、生活の相談対応、居場所内ではものづくりや外出イベント等に積極的に参加。
- ・母相談。本人の居場所支援の模索。教育クーポンの利用へのつなぎ。
- ・フリースクールでの居場所支援、高校受験に向けた面接練習。
- ・個別面談での相談対応及び、学校、医療機関等との連携。
- ・訪問での学習サポートや日常生活の相談、及び学校連携。
- ・母子それぞれへの定期面談による気持ちの吐き出し、本人とは運動や学習などその時々ニーズに合わせた対応を行った。
- ・本人の定期面談による気持ちの吐き出しや他者との関わりの場の提供。母への面談を通して家庭状況改善に向けた助言及びサポート。
- ・個別面談で進路決定をサポート。
- ・母相談を通じた家庭の安定及び状況の見守り。
- ・個別相談、心理カウンセリング、各種セミナーでのサポートを行った。
- ・個別面談での相談対応、余暇を通じた本人への心理的サポート。
- ・アルバイトの就職サポート。
- ・個別相談や適職診断、求人検索を行い就労をサポート。
- ・食糧支援。就労訓練。就労支援。
- ・面談を通し、高校卒業後、社会人として自活するための支援を行った。
- ・個別相談を通し世帯を含む生活の立て直しを行った。
- ・個別サポートを行い、福祉サービスにつなぎ支援を行った。

(一部抜粋)

Q9. 初めて本人と対応した日を開始日としたときの支援期間
(単位：〇ヶ月)

	度数	比率 (%)
0ヶ月	2	1.0
1ヶ月未満	2	1.0
1ヶ月	2	1.0
2ヶ月	2	1.0
3ヶ月	7	3.3
4ヶ月	4	1.9
5ヶ月	3	1.4
6ヶ月	8	3.8
7ヶ月	4	1.9
8ヶ月	3	1.4
9ヶ月	3	1.4
10ヶ月	3	1.4
11ヶ月	5	2.4
12ヶ月	7	3.3
13ヶ月	3	1.4
14ヶ月	2	1.0
15ヶ月	5	2.4
16ヶ月	1	0.5
17ヶ月	1	0.5
18ヶ月	2	1.0
19ヶ月	1	0.5
20ヶ月	3	1.4
21ヶ月	3	1.4
22ヶ月	1	0.5
23ヶ月	3	1.4
24ヶ月	8	3.8
26ヶ月	2	1.0

27 ヶ月	1	0.5
28 ヶ月	2	1.0
29 ヶ月	1	0.5
30 ヶ月	1	0.5
33 ヶ月	4	1.9
34 ヶ月	2	1.0
35 ヶ月	2	1.0
36 ヶ月	1	0.5
37 ヶ月	1	0.5
38 ヶ月	1	0.5
43 ヶ月	1	0.5
44 ヶ月	2	1.0
45 ヶ月	7	3.3
46 ヶ月	1	0.5
47 ヶ月	2	1.0
49 ヶ月	2	1.0
51 ヶ月	8	3.8
60 ヶ月	1	0.5
65 ヶ月	1	0.5
継続	78	37.0
不明	2	1.0
合計	211	100.0

n=211

Q10. (センターから繋がった後に) 連携した主な支援機関 (1つ)

	度数	比率 (%)
教育委員会	0	0.0
学校	32	15.1
スクールソーシャルワーカー	44	20.8
教育事務所	1	0.5
児童相談所	3	1.4
精神保健福祉センター	1	0.5
健康推進課	5	2.4
障害福祉課	2	0.9
保護課	48	22.6
子育て支援課	0	0.0
子ども保育課	0	0.0
自治体の相談窓口	1	0.5
社会福祉協議会	1	0.5
ハローワーク	1	0.5
サポートステーション	0	0.0
民間・NPO等の支援団体	22	10.4
警察	0	0.0
保護観察所	0	0.0
その他	8	3.8
ひとつもない	43	20.3
合計	212	100.0

n=212

Q10-①. Q10で「民間・NPO等の支援団体」または「その他」を選択した場合の具体名。

	度数	比率 (%)
NPO 法人 TEDIC	3	10.0
認定 NPO 法人 ども感ぱにー (ぼはっく)	1	3.3
NPO 法人 まきばフリースクール	1	3.3
子どもセンター「らいつ」	1	3.3
一般社団法人イシノマキ・ファーム	1	3.3
一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン	1	3.3
保育所	1	3.3
公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン	6	20.0
医療機関	1	3.3
宮城県高校教育課	1	3.3
弁護士事務所	1	3.3
公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター	1	3.3
総合支所保健福祉課	1	3.3
石巻市役所 虐待防止センター	2	6.7
認定 NPO 法人 switch (石巻 NOTE)	7	23.3
特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻、放課後子どもクラブ Bremen、一般社団法人 石巻じちれん、石巻市子どもセンター「らいつ」	1	3.3
合計	30	100.0

n=30

Q11. 支援開始時点において、相談者は以下の属性の人とどのような関わりがありましたか。(度数)

	家族・親 族 (n=212)	学校で出 会った友 人 (n=211)	職場・ア ルバイト 関係の人 (n=213)	地域の人 (n=213)	インター ネット上 における 人やコミ ュニティ (n=212)
会話やメール等をよくしている	43	17	6	6	4
楽しく話せる時がある	56	64	5	4	11
何でも悩みを相談できる人がいる	9	1	0	0	0
困ったときは助けてくれる	29	1	1	1	0
他の人には言えない本音を話せることがあ る	4	1	0	0	1
強いつながりを感じている	24	2	1	0	3
関わりがない	9	61	166	64	34
分からない	38	64	34	138	159
合計	212	211	213	213	212

Q11. 支援開始時点において、相談者は以下の属性の人とどのような関わりがありましたか。(比率)

	家族・親 族 (%) (n=212)	学校で出 会った友 人 (%) (n=211)	職場・ア ルバイト 関係の人 (%) (n=213)	地域の人 (%) (n=213)	インター ネット上 における 人やコミ ュニティ (%) (n=212)
会話やメール等をよくしている	20.3	8.1	2.8	2.8	1.9
楽しく話せる時がある	26.4	30.3	2.4	1.9	5.2
何でも悩みを相談できる人がいる	4.3	0.5	0.0	0.0	0.0
困ったときは助けてくれる	13.7	0.5	0.5	0.5	0.0
他の人には言えない本音を話せることがある	1.9	0.5	0.0	0.0	0.5
強いつながりを感じている	11.3	1.0	0.5	0.0	1.4
関わりがない	4.3	28.9	77.9	30.1	16.0
分からない	17.9	30.3	16.0	64.8	75.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Q12. 支援開始時点において、相談者は子若センター以外の機関とつながっているか把握していますか。

	度数	比率 (%)
把握している	139	65.3
把握していない	74	34.7
合計	213	100.0

n=213

Q12-①. Q12で「把握している」を回答した場合、主にどこの機関とつながっていましたか。

	度数	比率 (%)
石巻市保健福祉部 保護課	26	18.7
石巻市保健福祉部 健康推進課	1	0.7
石巻市役所 虐待防止センター	2	1.4
石巻市保健相談センター	1	0.7
学校	37	26.6
学校 (SSW)	22	15.8
保育所	1	0.7
塾	2	1.4
宮城県子ども総合センター附属診療所 (子どもメンタルクリニック)	1	0.7
精神科	1	0.7
東部児童相談所	6	4.3
相談支援事業所	1	0.7
社会福祉協議会	2	1.4
就労継続 B 型事業所 YUTTARI	1	0.7
認定 NPO 法人 switch	24	17.3
特定非営利活動法人みやぎ子ども養育支援の会	1	0.7
認定 NPO 法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ	1	0.7
みやぎ人財活躍応援センター (愛称:みやぎシゴトサポーター)	1	0.7
石巻地域若者サポートステーション	1	0.7
公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン	1	0.7
児童発達支援・放課後等デイサービス ドリームハウス	2	1.4
学校 保護課	3	2.2
学校 相談支援事業所	1	0.7
合計	139	100.0

n=139

Q13. 課題は改善されましたか

	度数	比率 (%)
改善した	24	11.3
どちらかといえば改善した	113	53.3
どちらかといえば改善していない	49	23.1
改善していない	26	12.3
合計	212	100.0

n=212

Q13-①. Q13で「どちらかといえば改善していない」「改善していない」と回答した場合、どのようなことに困っているか教えてください。

- ・進路相談や求人探しを手伝うも行動に移すことができなかった。
- ・本人のひきこりが改善していない。受診を拒否している。
- ・コロナ感染拡大で利用が途絶えた。
- ・メンタル不調、家庭問題が継続している。
- ・不登校が継続している。
- ・子どもへのかかわり方に対し継続的に大変さがある。
- ・母への支援や関係機関との調整により改善してきた課題もあるが、新たな課題が湧き上がっている状態。
本人は学校を時折休み、昼夜逆転しているときがある状態。
- ・本人は楽しく過ごせたが、環境の改善を感じない。
- ・本人が支援を拒否している。
- ・保護者と連絡がとれなくなり支援が中断したため、課題が分からない。
- ・本人の精神疾患によりパワーレス状態が続いている。
- ・家庭に問題があるが、家庭に介入できる人材がおらず、根本的な解決には至らなかった。本人が18歳を超えたため、関わってくれる人や機関が少ない。本人の相談意欲がなく、支援が中断された。
- ・保護者との関係構築。

(一部抜粋)

Q13-②. Q13で「どちらかといえば改善していない」「改善していない」と回答した場合、今後解決のためにどのような取り組みを行う必要があると思うか教えてください。

- ・ 本人の興味に沿った実習・労働体験の機会を用意する必要がある。
- ・ 心のケアをしながら、高校卒業・卒後進路のサポートを継続する必要がある。
- ・ 個別面談や職業検査を行い自身に合った職業を探すサポートを継続していく必要がある。
- ・ 引き続き現状の支援が担保されること。
- ・ 医療機関への受診。
- ・ 今後について本人と、親御さんの意識付け。
- ・ 引き続き関係機関との情報共有、対応の検討。
- ・ 本人と無目的に関われる人が増える。
- ・ 世帯状況改善のために、他機関と連携・役割分担を行いながら父母へのアプローチを行う。
- ・ 母を通して必要な時につながれる関係性の維持。
- ・ 所属機関がなくても、居場所として機能する場所や伴走してくれる人材が必要。

(一部抜粋)

Q14. 本人の全体的な状態はよくなりましたか。

	度数	比率 (%)
よくなった	30	14.2
どちらかといえばよくなった	103	48.8
どちらかといえば変わらない	28	13.3
変わらない	50	23.7
合計	211	100.0

n=211

Q15. 現在（支援終結している場合は終結時点において）、相談者は以下の属性の人とどのような関わりがありましたか。（度数）

	家族・親 族 (n=212)	学校で出 会った友 人 (n=212)	職場・ア ルバイト 関係の人 (n=210)	地域の人 (n=212)	インター ネット上 における 人やコミ ュニティ (n=212)
会話やメール等をよくしている	43	19	2	3	8
楽しく話せる時がある	57	70	13	2	17
何でも悩みを相談できる人がいる	10	4	1	0	1
困ったときは助けてくれる	31	2	9	4	1
他の人には言えない本音を話せることがある	2	2	0	2	0
強いつながりを感じている	22	2	0	0	4
関わりがない	5	48	129	51	20
分からない	42	65	56	150	161
合計	212	212	210	212	212

Q15. 現在（支援終了している場合は終了時点において）、相談者は以下の属性の人とどのような関わりがありましたか。（比率）

	家族・親 族 (%) (n=212)	学校で出 会った友 人 (%) (n=212)	職場・ア ルバイト 関係の人 (%) (n=210)	地域の人 (%) (n=212)	インター ネット上 における 人やコミ ュニティ (%) (n=212)
会話やメール等をよくしている	20.3	9.0	1.0	1.4	3.8
楽しく話せる時がある	26.9	33.0	6.2	0.9	8.0
何でも悩みを相談できる人がいる	4.7	1.9	0.5	0.0	0.5
困ったときは助けてくれる	14.6	0.9	4.3	1.9	0.5
他の人には言えない本音を話せることがある	0.9	0.9	0.0	0.9	0.0
強いつながりを感じている	10.4	0.9	0.0	0.0	1.9
関わりがない	2.4	22.6	61.4	24.1	9.4
分からない	19.8	30.7	26.7	70.8	75.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Q16. 現在の支援状況について教えてください。

	度数	比率 (%)
自機関で継続支援している	105	49.5
自機関での継続支援を行っていたが中断している（支援の必要性はあったができなくなった）	23	10.8
自機関では支援終了、他の機関で支援継続している	21	9.9
すべての機関での支援が終了している（支援の必要性がなくなった）	42	19.8
現在の支援状況を把握していない	21	9.9
合計	212	100.0

n=212

Q16-①. Q16で「自機関では支援終了、他の機関で支援継続している」と回答した場合、現在、どこが主に支援を行っていますか。

	度数	比率 (%)
学校	5	21.7
宮城県中央児童相談所	1	4.3
社会福祉法人女川町社会福祉協議会	1	4.3
石巻市保健福祉部 保護課	2	8.7
石巻市役所 虐待防止センター、相談支援事業所	1	4.3
特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻	1	4.3
一般社団法人 震災こころのケア・ネットワークみやぎ、保健師	1	4.3
公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン	1	4.3
NPO 法人 TEDIC	1	4.3
相談支援事業所ふりーすペーす"Kai"	1	4.3
認定 NPO 法人 switch	3	13.0

愛さんさん石巻事業所	1	4.3
石巻メンテナンスセンター（IMC）	1	4.3
不明	3	13.0
合計	23	100.0

n=23

Q16-②. Q16で「すべての機関での支援が終結している」と回答した場合、どのような条件が揃って自機関での支援を終結させましたか。

- ・ 専門機関への支援に移行
- ・ 卒業後就労し、継続できているため終結。
- ・ 就職先が見つかり、仕事も順調とのことで終結。
- ・ 本人が学校へ登校に可能になり、高校進学も果たした。
- ・ 志望していた高校に進学したこと。
- ・ 本人学校に通えており、支援の希望もないことから。
- ・ 状況の安定及び支援ニーズの消失。
- ・ 高校卒業及び就職先が決まり、1人暮らしを始めたため。
- ・ 就労支援が終了し、本人との信頼関係も築けて、何かあった際に相談に乗れる関係性があると判断したため。